

上田市立産婦人科病院  
新改革プラン点検・評価報告  
(平成29年度実績)



Ueda Municipal Hospital of Obstetrics and Gynecology  
上田市立産婦人科病院

平成30年10月

# 目 次

## I 上田市立産婦人科病院新改革プランについて

1	はじめに	1
2	新改革プランの概要	1
3	点検・評価について	1
4	総合評価について	1

## II 上田市立産婦人科病院新改革プラン点検・評価について

1	公立病院改革プラン設定各目標の実績と評価	2
(1)	経営効率化	2
(2)	再編ネットワーク化	3
(3)	経営形態の見直し	3
(4)	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	3

# I 上田市立産婦人科病院新改革プランについて

## 1 はじめに

公立病院は、少子高齢化や医師不足等により、経営や医療提供体制の維持が非常に厳しい環境にあります。総務省は、平成19年に公立病院改革プランの策定を義務付け、病院事業経営の改革に取り組んできましたが、依然として医師不足等厳しい環境が継続する状況の中で、持続可能な経営を確保しきれていない公立病院も多数あることから、平成27年に「新公立病院改革ガイドライン」により新たな計画を策定することを求めました。

上田市立産婦人科病院新改革プランは、このガイドラインに基づき、「経営効率化」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の4つの視点に立ち、経営の効率化による持続可能な病院経営を目指すものとし、平成28年度から32年度までの5年間の計画として平成29年3月1日に策定いたしました。

当改革プランは、決算状況を踏まえ、毎年、点検・評価をすることとしており、この報告は平成29年度の実績により検証を行ったものです。

## 2 新改革プランの概要

### (1) 新改革プランの内容の4つの柱

- ① 経営効率化
  - 1) 経営指標に係る数値目標の設定
  - 2) 一般会計負担の考え方
  - 3) 目標達成に向けた具体的な取組
- ② 再編・ネットワーク化
  - 1) 信州上田医療センター産婦人科等との役割分担の中での連携
- ③ 経営形態の見直し
- ④ 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

### (2) 設定目標(5年間の目標)

- ① 持続可能な経営を維持する上で必要な医師、助産師の確保
- ② 適時、適正な料金設定による医業収益の確保と、平成32年度には収支黒字化とすることに向けた取り組み
- ③ 婦人科診療の充実、及び妊娠期から出産後における産後ケアを含めた持続的な医療の提供と、関係機関との連携による子育て環境に対する継続的な取り組みの強化
- ④ 他会計補助金について、基準の検討

## 3 点検・評価について

上記の4つの柱及び収支計画・財政計画について、平成29年度の実績をもとに新改革プラン策定委員会により各項目の点検評価を行い、収支計画・財政計画の見直しを行った。

## 4 総合評価について

当地域の周産期医療を取り巻く環境は、少子化、医師不足、分娩を取り扱う医療機関の減少等様々な課題を抱えている状況にあります。

平成29年度の決算では純損失を計上しましたが、一般会計からの負担を抑制した中で、分娩料金等の改定や、分娩件数及び外来患者数ともに増加したことから医業収益を増収することができました。しかし、産婦人科単科での病院経営は大幅な増収を見込むことは困難であり、一般会計の負担がなければ経営が成り立たない状況にあります。

平成30年度から常勤医師1名を確保し、新たな診療体制で医療の提供を行うことができましたが、引き続き医師、助産師等の確保を進めるとともに、経費の削減等を行い、持続可能な経営の確保を進めていくことが必要です。

## II 上田市立産婦人科病院新改革プラン点検・評価について

【評価方式】

- ◎ = 設定目標に達した
- = 設定目標にほぼ達した
- △ = 設定目標に達することができなかった
- × = 設定目標の実施ができなかった

### 1 公立病院改革プラン設定各目標の実績と評価

改革プラン設定目標	設定目標の取り組み	取組の成果等	評価																												
(1) 経営効率化  プランP4～P9	1) 経営指標に係る数値目標																														
	1. 収支改善 経常収支比率、医業収支比率の改善	医業費用は人件費等の増加により増となったが、分娩数の確保により医業収益が増となり、経常収支比率は約5ポイント、医業収支比率は約7ポイント推計より向上した。	◎																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>財務目標</th> <th>H29年度目標</th> <th>H29年度実績</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>92.77%</td> <td>97.96%</td> <td>5.19%</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>71.33%</td> <td>78.71%</td> <td>7.38%</td> </tr> </tbody> </table>	財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較	経常収支比率	92.77%	97.96%	5.19%	医業収支比率	71.33%	78.71%	7.38%																	
		財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較																										
	経常収支比率	92.77%	97.96%	5.19%																											
	医業収支比率	71.33%	78.71%	7.38%																											
	2. 収入確保 報酬等給与費の見直し、婦人科診療強化による利用者の増加、病床利用率の向上	非常勤医師の確保による人件費が増加したものの、分娩数確保による増収から医業収益は増加となり、職員給与費対医業収益比率は目標を上回った。病床利用率は前年度より2ポイント上昇したが目標への到達はできなかった。	○																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>財務目標</th> <th>H29年度目標</th> <th>H29年度実績</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員給与費対医業収益比率</td> <td>93.84%</td> <td>86.35%</td> <td>△7.49%</td> </tr> <tr> <td>入院数(1日)</td> <td>18人</td> <td>17人</td> <td>△1人</td> </tr> <tr> <td>外来数(1日)</td> <td>44人</td> <td>48人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医師1日医業収益</td> <td>605,255円</td> <td>631,971円</td> <td>26,716円</td> </tr> <tr> <td>看護1日医業収益</td> <td>44,834円</td> <td>46,813円</td> <td>1,979円</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>66.70%</td> <td>63.50%</td> <td>△3.20%</td> </tr> </tbody> </table>	財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較	職員給与費対医業収益比率	93.84%	86.35%	△7.49%	入院数(1日)	18人	17人	△1人	外来数(1日)	44人	48人	4人	医師1日医業収益	605,255円	631,971円	26,716円	看護1日医業収益	44,834円	46,813円	1,979円	病床利用率	66.70%	63.50%	△3.20%	
		財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較																										
		職員給与費対医業収益比率	93.84%	86.35%	△7.49%																										
入院数(1日)		18人	17人	△1人																											
外来数(1日)		44人	48人	4人																											
医師1日医業収益		605,255円	631,971円	26,716円																											
看護1日医業収益	44,834円	46,813円	1,979円																												
病床利用率	66.70%	63.50%	△3.20%																												
3. 医療機能 妊娠から分娩、産後ケアを含めた医療の提供と分娩・入院・外来件数の確保。	分娩数は目標比32件増加。入院は切迫早流産の減少から目標値を下回ったが、外来数は1,471件増となった。	○																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>財務目標</th> <th>H29年度目標</th> <th>H29年度実績</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>466件</td> <td>498件</td> <td>32件</td> </tr> <tr> <td>入院件数</td> <td>6,572件</td> <td>6,254件</td> <td>△318件</td> </tr> <tr> <td>外来件数</td> <td>13,238件</td> <td>14,709件</td> <td>1,471件</td> </tr> </tbody> </table>	財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較	分娩件数	466件	498件	32件	入院件数	6,572件	6,254件	△318件	外来件数	13,238件	14,709件	1,471件														
	財務目標	H29年度目標	H29年度実績	比較																											
	分娩件数	466件	498件	32件																											
入院件数	6,572件	6,254件	△318件																												
外来件数	13,238件	14,709件	1,471件																												
2) 一般会計負担のルール化																															
1. 医業収入だけでは確保しきれない費用負担への資金確保として、一般会計負担のルール化を決定する。	平成29年度にて財政推計及び繰入変動シュミレーションにより、保有資金を維持するためのキャッシュベース変動を基準とした一般会計負担算出方式について策定し、財政部局との協議を行った。	◎																													
3) 具体的取組																															
1. 医師、助産師の確保	平成30年度からの常勤医師1名を確保した。看護スタッフは助産師2名を確保したが、助産師1名の退職により1名の純増となった。	○																													
2. 施設・設備整備費抑制	定期保守の実施による機器の延命化を行いながら、対応年数を経過した医療機器について計画的に更新を実施した。	◎																													
3. 病床利用率改善	病床利用率を上げるための一般病床と新生児病床の見直し、分娩増加傾向にある現段階での調整はできないことから、今後の患者動向により調整していく。	—																													
考察	分娩数及び外来患者数の確保により、経営指標が概ね向上した。平成30年度からの常勤医師1名の確保ができた。																														

改革プラン設定目標	設定目標の取り組み	取組の成果等	評価
(2)再編・ネットワーク化 プランP9～P10	1) 信州上田医療センター産婦人科との役割分担の中での連携		
	1.産婦人科との役割分担の中での連携	・産婦人科外来紹介90件 ・母体搬送9件、 ・合同症例検討会3回、連携会議1回	◎
	2) 信州上田医療センター各科との連携		
	1.各診療科との連携	・小児科連携134回 ・検査科連携134件	◎
	3) その他地域内産婦人科医療機関との連携		
	1.地域内医療機関との連携	・機能分担等有機的な連携は地域医療構想を踏まえ、今後検討していく。	—
考察	信州上田医療センターとの連携は、医療区分の明確化により互いの機能を補完する体制が整っており、引き続き、症例検討会、連携会議等定期的に行いながら連携による医療提供体制維持を進めていく。		
(3)経営形態の見直し プランP10	1) 指定管理、民間譲渡等への研究、検討		
	1.運営形態の研究と検討	経営形態の見直しについては、地域の少子化状況、医師確保状況等を考慮しながら研究していく。	—
考察	地域の人口状況や当院の医師、医療スタッフの確保状況等により必要に応じ検討していく項目		
(4)地域医療構想を踏まえた役割の明確化 プランP10	1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化		
	1.地域医療構想による役割の明確化	地域医療構想では、周産期医療についての明確な方向性は示されていないが、地域内周産期施設の役割分担を明確化し、地域内での分娩場所の確保を図る。	—
考察	地域医療構想に沿った医療提供体制を構築していく。		